

対話 概要
第1回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚について
日時：令和7年7月12日（土） 午前10時～午後12時15分 場所：中央公民館 参加者：63名 市出席者：森市長
《市長のテーマ説明》 まちづくりの理念 理念：「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち」 「ひとりひとりにやさしい」 多様な価値観や生き方を尊重し、互いに押しつけず対等な関係を築くことを意味する。 「ささえあいのまち」 市民がそれぞれの力で支え合う社会をめざし、市はその調整・支援役を担う。 理念の原体験 ① 共働学舎での共同生活（多様な人との役割分担） ② 阪神・淡路大震災でのボランティア経験（助け合いの重要性） 財政の現状と課題 貯金 約400億円（うち財政調整基金は約50億円） 借金 約700億円（健全性は維持） 最大の課題：構造的な赤字 市の収入が562.9億円で支出が569.2億円。 今後10年間で毎年約6.3億円の赤字が見込まれ、財政調整基金が枯渇する恐れ。 対応の必要性 恒常的な支出を見直し、年間約7億円の支出削減が急務。 《対話》 1 参加者【政治家への転身理由、財政について】 ・医師から稼ぎの少ない政治の世界になぜ進んだのか？ ・市の収入を増やして支出を減らせば簡単だが、それが難しい現実。 → 具体的なアイデアは書面で提出済みなので見てほしい。 ➡ 市長 ・人生の経験を活かして「公共政策」に貢献したいと思った。 ・医療を出発点に、国連やまちづくりで広い視野を持つようになり、「制度全体を変える立場」が必要だと感じた。

・財政提案については、書面を拝見したい。

2 参加者【高齢者支援、認知症、地域包括ケア、職員数などについて】

- ・認知症基本法に伴う市の条例化・対応は？
- ・心のサポーター制度やコミュニティケアの実施を
- ・広報掲示板撤去や交通補助券削減は「優しくない」政策。
- ・健康診断に軽度認知症の検査を組み入れてほしい。
- ・他市（例：姫路・明石）に比べ職員数が多いすぎるのでは。

➡ 市長

- ・個別条例や制度は 7 市 1 町で並行して進めているため、他市と同等の進捗と認識している。（本市では認知症条例は未制定（未着手）←本議事録にて補足しました）
- ・広報板の撤去は使用率等全体を見た上で判断。自治会で残す選択も可能。
- ・職員数の比較は単純ではなく、雇用形態や業務内容によって差があるため、一概に削減が良いとは言えない。
- ・広報板・交通補助券・健康診断など財政面を見て、全ての要望を実現するのは困難。

3 参加者【ふるさと納税について】

- ・宝塚市のふるさと納税はもっと活用すべきでは？
- ・宝塚ブランドを活かして寄付を増やすべき。

➡ 市長

- ・都市部はふるさと納税制度上、構造的に流出が多く赤字になる傾向。
- ・宝塚市も例外ではなく、今も工夫しているが何億円という規模の収入にはなり得ない。
- ・制度設計自体が地方優遇のため、都市側では厳しい状況ではあるが、今後も工夫は続けたい。

4 参加者【行政内部のコスト削減、青少年育成会議について】

- ・役所内でどのように節約・見直しがされているのか。
- ・青少年育成会議の廃止は残念。

➡ 市長

- ・電気代や紙使用、業務効率化など、削減策は内部で相当取り組んでいる。
- ・行政内部の削減策について、今後はもっと情報発信を工夫したい。

5 参加者【SNS への移行、広報誌に掲載されていた財政情報について】

- ・SNS やホームページは市民側からのアクセスが必要で情報弱者が取り残されるのではないか。
- ・広報誌 7 月号の予算（歳出）が約 927 億円とあるが、今日の説明では 569 億となっている。矛盾していないか？人件費は含まれているか？

➡ 市長

- ・広報誌は今後も継続予定。市ホームページは整備予定。SNS・LINE の整理もしていきたい。
- ・歳出 927 億円と 569 億円の違いは「歳出総額」と「一般財源ベース」の違い。
- ・人件費は含まれている。財政状況については単純化して解説したため、広報誌の数字とは異なる。

6 参加者【中学校クラブ活動の地域移行について】

- ・地域の若い保護者から「中学校のクラブ活動と PTA が廃止される」と聞いた。
- ・子どもたちにとって大切な経験の場がなくなること、成長に影響があるのではと心配している。
- ・自分も手伝えることがあるなら関わりたい。

➡ 市長

- ・教員の負担が大きいため、働き方改革の一環で、部活動の地域移行は国の方針。
- ・クラブ活動の重要性は十分に理解しており、地域との連携を進めながら代替の受け皿を準備中。
- ・意見や協力は歓迎。段階的に 5～10 年かけて進める長期的取り組み。

7 参加者【財政非常事態宣言について】

- ・宝塚市は財政が厳しいのに「非常事態宣言」が出ていない。
- ・市民に危機感を共有してもらうには宣言すべきでは？
- ・特に市民が負担を強いられる中で、職員給与などにも“痛みの分かち合い”があると、市民の納得感が得られると思う。

➡ 市長

- ・「財政非常事態」は法的な定義がなく、今の財政状況はそこまでは至っていない。
- ・ただ、それに非常に近い状態であると認識している。
- ・正確で冷静な情報発信を心がけたい。
- ・市職員の給与カットなどは現在の状況には適しておらず、持続的な支出見直しを優先。

8 参加者【ささえあいのまちづくりについて】

- ・子どもと高齢者の世代間交流が良い影響を与えている。
- ・中学生が小学生を支援する活動など、制度化されるとよいのでは。

➡ 市長

- ・世代間交流は非常に重要。
- ・自治体主導だけでなく、市民からの提案や活動も支援していきたい。

- ・既存の枠組みもあるので、実際に提案があればぜひ協力したい。

9 参加者【宝塚市の組織体制・情報発信・市民サービスについて】

- ・市役所の課の分かれ方がわかりにくい。
- ・ホームページの更新が遅い。
- ・財政削減しながらも「やさしい行政」をどう実現するのか？

➡ 市長

- ・部署名や役割の整理は必要。効率化を進めたい。
- ・ホームページはリニューアル予定。市民の声も反映したい。
- ・「やさしさ」とは依存ではなく自立を支援すること。過保護ではなく、自立支援型の福祉政策を目指す。

10 参加者【地域防災体制について】

- ・自主防災組織の活動が進まない。
- ・市の対応が薄いと感じる。成功事例の横展開などできることをしてほしい。
- ・福祉部門（要援護者対応）だけが例外で、要援護者支援については分かりやすい指導があった。
- ・市長に強く関心を持ってもらいたい。

➡ 市長

- ・地域ごとに防災の進み具合に差があるのは事実。
- ・成功事例の共有や横展開は重要と認識している。
- ・阪神・淡路大震災を経験したことは自身の原点。今後さらに力を入れて取り組む。
- ・職員のモチベーション向上も図っていく。要望があれば市長にも届く制度がある。

11 参加者【医療的ケア児の支援について】

- ・医療的ケアが必要な2歳の子が保育園に入れず、移動も困難。
- ・保育園入園の相談で、保育事業課と保育企画課にたらい回しとなった。担当者を明確にして、相談窓口を一本化してほしい。
- ・タクシー代が高額で負担が大きい。移動支援制度の導入を希望。

➡ 市長

- ・医療的ケア児の受け入れは市としても新しい取り組みで、体制整備が必要。
- ・担当者を一元化する方向で庁内検討中。すぐに解決できるとは限らないが、問題意識は共有し、改善を進める。

12 参加者【広報板について】

- ・広報板の撤去は地域コミュニケーションに悪影響。

- ・広報板が重要な情報源となっている高齢者も多い。
- ・地域への維持費転嫁は負担が大きい。
- ・地域のまちづくり協議会に多額の繰越金があるが、有効活用されていない。

➡ 市長

- ・本市だけでなく、全国的に広報板撤去の動きが進んでいる。
- ・コミュニケーション手段の変化（デジタル化）やコスト削減が背景。
- ・まちづくり協議会のお金の使い方は地域主導で決めるべきと考える。
- ・助成金の使途や繰越金に関しても一定のルールに基づいている。

13 参加者【広報板と公園の樹木管理について】

- ・アルバイト経験から、広報板のポスターが多すぎて貼りきれない。
- ・雨風でポスターがすぐ剥がれる。
- ・人通りが少ない場所にも掲示しているのは非効率。
- ・広報誌にポスター情報をまとめて載せたほうが効果的では。
- ・公園、道路の樹木は落葉や根による歩道の盛り上がりなど課題が多い。落葉しない、大きくならない樹木にすればコスト削減になり、街もきれいになるのではないか。

➡ 市長

- ・広報板に関するご意見は理解しているが、コストや効果から撤去方向。
- ・緑地管理や樹木の剪定も全国的に課題。
- ・地域と連携してバランスの良い整備を進めたい。

14 参加者【次回以降の開催について】

- ・今後も同じテーマで他の公民館でも開催されるのか？

➡ 市長

- ・今月は同じテーマで東・西・中央公民館・西谷会館の4会場で開催。

15 参加者【医療的ケア児の支援制度について】

- ・同じ子どもでも目的（通園 or 療育センター）によって支援の有無が異なる。
- ・義務教育と保育で送迎体制に格差がある。
- ・子ども中心に制度を見直し、支援を柔軟にしてほしい。
- ・今後さらに医療的ケア児は増えると予測される。

➡ 市長

- ・ご意見をしっかり受け止める。制度のギャップや矛盾の整理は必要と認識している。
- ・この5～10年で、医療的ケア児への支援制度は大きく改善してきたが、まだ課題も多い。
- ・今後も柔軟に施策の整備や工夫をしていきたい。